

| | |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 氏名 | 丸山 秀彦 |
| 授与した学位 | 博士 |
| 専攻分野の名称 | 医学 |
| 学位授与番号 | 博甲第 3711 号 |
| 学位授与の日付 | 平成 20 年 9 月 30 日 |
| 学位授与の要件 | 医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当) |
| 学位論文題目 | Thrombocytopenia in Preterm Infants with Intrauterine Growth Restriction (早産の子宮内発育遅延児における血小板減少) |
| 論文審査委員 | 教授 平松 祐司 教授 谷本 光音 准教授 吉永 治美 |

学位論文内容の要旨

病的な早産児において、出生時の血小板減少はよく認められる。血小板減少は子宮内発育遅延 (IUGR)、つまり出生体重が 10 パーセントイル未満である児に伴うことが多い。血小板減少の病態や IUGR におけるその意義はまだ十分解明されていない。そこで我々は血小板減少を伴う早産の IUGR 児の特徴について検討した。2002 年 1 月から 2007 年 6 月までに岡山大学病院で出生した 27 人の日本人の早産で単胎 IUGR 児を対象とした。奇形、染色体異常、同種免疫性血小板減少、敗血症、母体アスピリン服用例は除外した。生後 72 時間以内に血小板減少を認めた A 群(n=8)と、それ以外の B 群 (n=19)に分けた。両群には、出生体重、頭囲、臍帯動脈と中大脳動脈の pulsatility index、臍帯動脈血における pH, pO₂, pCO₂ で有意差が認められた。これは A 群の児が小さく、異常な血流パターンを示し、出生時に低酸素状態であったことを示している。血小板減少を伴う児は、慢性的低酸素血症により重度に成長が制限されていると考えられた。血小板減少は慢性的低酸素血症のよい指標になりうる。

論文審査結果の要旨

本研究は早産児の子宮内胎児発育遅延児 (IUGR) に見られる血小板減少について検討した研究である。生後、血小板数 15 万/ μ l 未満を呈した A 群では、それ以外の B 群に比較し、有意な体重減少、頭囲の減少、UA-pH と UA-pO₂ の低下、UA-pCO₂ の上昇を認めた。これらの結果から早産 IUGR における血小板減少は出生時体重と関係し、その背景として慢性的な低酸素環境が考えられ、血小板数は子宮内の慢性的低酸素血症のパラメーターなることを指摘した。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。

審査概要:

Cesarean section の綴りの間違い、IUGR の略号の間違い、妊娠高血圧症候群の診断基準はどこのもを用いたかの記載がないことを指摘し、これらの修正・追加を条件に合格とした。

上記の修正・追加を認めた。